

# 大使を国際名誉顧問に 浜松市と覚書



### 人材育成の覚書を締結

フォーラムに先だって、市と浜松市は「浜松市・総社市の多文化共生に資する人材育成等に係る覚書」を締結。市長と鈴木康友浜松市長が署名し、浜松市での市職員の実務研修、生活相談員や日本語ボランティアなどの育成の相互協力をうたった覚書を取り交わした。〔写真上〕

### 国際名誉顧問に委嘱

カストロ・ネーベス駐日ブラジル大使を、「総社市国際名誉顧問」に委嘱。今後の総社市の多文化共生の推進に、アドバイスや支援の協力をお願いした。写真は、国際名誉顧問のたすきを掛け、フォーラムの基調講演をする大使。〔写真下〕



# 音楽と食で交流



ソウジャ ブラジリアンデイは、外国人と共に手を取りあって暮らしていけるまちづくりに向けたシンボリックイベント。外国人との共生の道のあり方を考えるフォーラムと、音楽や食を通じて交流を図る交流フェスタの2本立てで開催しました。

カストロ・ネーベス駐日ブラジル大使はフォーラム以外にも、ブラジル人学校「エスコラー・オカヤマ・モモタロウ」(駅前一丁目)の訪問や交流フェスタにも参加しました。在日ブラジル人の皆さんは、談笑したり記念写真を求めたりと、大使の訪問を歓迎。「新たな気づきができていることをうれしく思う。在日ブラジル人には日本を好きになって、地域社会にとけ込んでほしい」と大使は話しました。

市が進める多文化共生の大きな柱の一つに生活支援があります。これまで、小・中学校へのスムーズな転入を図る「虹の架け橋教室」の開設や相談などに取り組んできました。地域にとけ込むためには、これらの支援とともに、受け入

れる日本人側が文化の違いを理解することも必要です。交流フェスタに参加した総社フオークダンスクラブは、今年2月から週1回、踊ったり食事をしたりして、在日ブラジル人と交流を続けています。加藤寿美子会長(山田)は、「かしこまらず自然体で楽しんでいます。長い目で交流ができたら」と話します。

フォーラムでは言葉などの教育とともに、受け入れ側のあり方などへの意見も出ました。相手を知り、歩み寄り、助け合うことのできる地域づくりが必要と。市は、覚書を交わした浜松市や、協定を締結したアムダグループからノウハウを得ながら、外国人の教育、生活支援、地域コミュニティへの参画などを進めていきます。

- ①フォークダンスを楽しむ
- ②サンバを演奏する
- ③和太鼓を演奏する
- ④ホットドッグを売る
- ⑤ブラジル料理を味わう
- ⑥ウイスキーを焼く
- ⑦サンバを踊る

「ソウジャ ブラジリアンデイ」の開催の意義を今後につなげる。

# 多文化共生



サンロード吉備路での交流フェスタを訪ねたカストロ・ネーベス駐日ブラジル大使と話す人たち



フォーラムの最後で「友達になるために」を歌うブラジル人学校の子どもたち